

## 第33回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム (JSR2020) 報告

実行委員長 曾田一雄 (名古屋大学 大学院工学研究科 物質科学専攻)

令和2年1月10日(金)から12日(日)にかけて第33回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウムが愛知県産業労働会館 ウィングあいちで開催された。開催会場は、JR名古屋駅に近く、今年は暖冬であったが、地下街を通してもアクセスでき、利便性が高い。一方、会場は、18階建ての複合イベント・会議施設であり、シンポジウムは、その2階から6階までと9階の一部を利用した。このため、縦方向の移動手段が他のイベントと共用となり、エレベータ(ホールや展示会場を結ぶ低層階用と会議室利用の高層階用)と(非常)階段であった。シンポジウム受付も5階小ホール・ホワイエに開設し、参加者の皆様にご不便をおかけしたが、皆様の健康に少しはお役に立てたかもしれない。

参加者は、事前登録426名、現地登録195名および招待者24名の計645名であり、過去3回(JSR2017-2019)の平均登録者数671名より若干少なかった。開催側としては、参加の皆様に事前登録のご利用をお願いしたい。このほか、企業展示として67社71ブース95名のご参加を頂き、感謝申し上げる。学術講演として口頭発表98件とポスター発表224件の計322件の発表があり、施設報告として20の共催団体から報告していただいた。また、各分野からご推薦いただいた13件の招待講演と5件の企画があった。写真1と2は、ポスター発表と口頭発表の一コマである。ポスター発表は、企業展示ブースとポスターボードが交互に配置された6階展示会場で行われ、熱気に溢れた議論が交わされていた。口頭発表は、2階大ホールと5階小ホール、9階大会議室にて行われた。細長い大会議室

では、写真のとおり、部屋の途中に第2スクリーンを設けた。表1に各分野の講演数をまとめた。

初日には、日本放射光学会総会をはじめ、共催団体の会議が5件開催された。会議期間中には、このほか、5件の



写真2 補助スクリーンを配置した細長い9階大会議室での口頭発表。

表1 JSR2020の各分野の講演数。( )内は学生発表数。

分野	招待講演	口頭発表	ポスター発表
加速器・光源	1	2(0)	9(4)
ビームライン・測定器	1	8(0)	33(6)
XFEL	1	5(2)	0
VSX(固体)	1	19(5)	24(10)
VSX(表面)	1	9(7)	15(8)
VXS(原子分子)	1	0	6(1)
VSX(その他)	0	0	0
X(回折・散乱)	1	16(2)	26(8)
X(分光・蛍光)	1	2(1)	13(3)
X(XAFS)	1	10(2)	38(20)
イメージング	1	14(2)	29(7)
赤外・テラヘルツ光	1	5(2)	0
生物	1	8(3)	14(5)
産業利用	1	0	13(4)
その他	0	0	4(0)
計	13	98(26)	224(76)

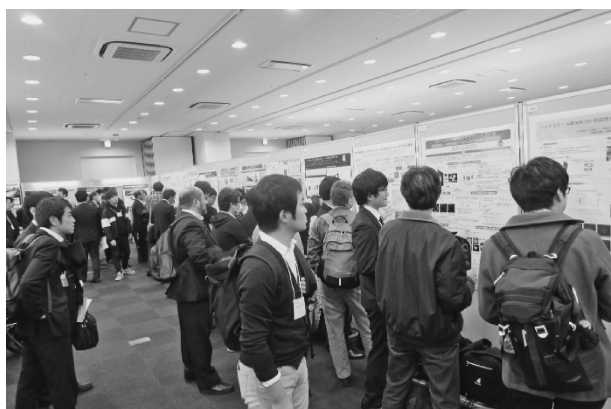


写真1 企業展示ブースとポスターボードが交互に配置された展示会場でのポスター発表。

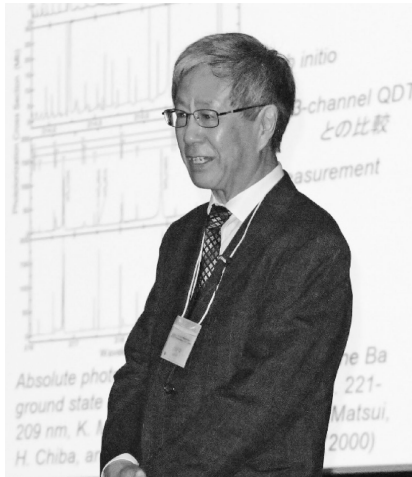


写真3 上田 潔氏による特別講演。



写真5 学会奨励賞を受賞された横山優一氏。



写真4 放射光科学賞を受賞された辛 埴氏。



写真6 功労報賞を受賞された小山 篤氏 (右) と朝倉清高 放射光学会会長 (左)

会議と2件のランチョンセミナーがあった。また、特別講演として上田潔氏 (写真3)、受賞講演として辛埴氏 (写真4) と横山優一氏 (写真5) からそれぞれの分野における興味深いお話があった。放射光施設における永年の放射光科学への貢献を讃えて小山篤氏 (写真6) と堀米利夫氏 (写真7) に日本放射光学会から功労報賞が贈られた。さらに本年は、放射光科学の先達、高良和武先生と佐々木泰三先生を追悼してそれぞれ両宮慶幸氏と宮原恒昱氏が思い出を語られ、両先生を偲んだ。

写真10は、懇親会における鏡割りの一コマである。真先正人大臣官房文部科学戦略官と森岡仙太 愛知県副知事にご祝辞を賜った。当日参加55名を含む269名の会員、50社95名の企業の方々など、総勢400名余りの参加を得た。名古屋駅前はりニア開業に向けて再開発が進んでおり、懇親会会場の老舗名鉄グランドホテルの利用もこれが最後、隣の街区まで含めた巨大商用施設計画が先日発表された。数に限りがあったが、「名古屋飯」をご堪能いただけただでしょうか？

JSR2020の幹事団体は、名古屋大学 シンクロトロン光研究センター (NUSR) を中心に、中部地区の2つの放射



写真7 功労報賞を受賞された堀米利夫氏 (右) と朝倉清高 放射光学会会長 (左)



写真8 追悼講演：高良和武先生を偲ぶ雨宮慶幸氏。



写真9 追悼講演：佐々木泰三先生の思い出を語る宮原恒昱氏。



写真10 懇親会での鏡割り：ソニー創業者の実家、知多半島の盛田酒造「ねのひ」でオモテナシ。  
左から朝倉清高 放射光学会会長，森岡仙太 愛知県副知事，真先正人 大臣官房文部科学戦略官，解良 聡 極端紫外光研究施設長，竹田美和 あいちシンクロトロン光センター長，宮崎誠一 名古屋大学シンクロトロン光研究センター長。勢いあまって…

光施設である自然科学研究機構 分子科学研究所 極端紫外光研究施設（UVSOR）と科学技術交流財団 あいちシンクロトロン光センター（あいちSR）とともに，あいちSRを支援する名古屋工業大学，豊田工業大学，名古屋大学およびデンソーや豊田中央研究所の放射光パワー・ユーザーから構成され，ご協力いただいた。UVSOR 施設の皆様には，プログラムをご担当いただき，産業利用を主体とするあいちSRセンターの皆様を中心に企業展示・ランチ

ンセミナーをご担当いただいた。名古屋大学 シンクロトロン光研究センターとポラリス社には，その他の諸々の作業を引き受けていただいた。展示会場設営の遅れなど，いくつも不行き届きな点があったにもかかわらず，何とか無事に終了できたのは，皆様のご協力とご厚情の賜物と心から感謝を申し上げ，次回JSR2021の広島大学放射光科学研究センター 生天目博文実行委員長（予定）にバトンタッチしたい。